

教育実習生と短期大学の新型コロナウイルス感染症対策

～実習生の行動様式の変容に関する調査を通して～

有嶋 誠

Measures against new coronavirus infections of educational trainees and junior colleges

～Through a survey on changes in the behavior of trainees～

Makoto ARISHIMA

要旨： 保育者養成校である本学では、今年の 6 月に教育実習（幼稚園）を予定していたが、国内及び県内における新型コロナの感染状況やそのことを主な理由とした実習園の要望等を考慮し、教育実習を 9 月に延期して実施した。幸いなことに 180 名の実習生が一人も新型コロナに感染することなく教育実習を無事に終えることができた。

そこで、次年度も予想される新型コロナ禍の教育実習に備えて「180 名の実習生及び本学を含む関係機関等が新型コロナの感染時期にどのような感染症対策をとったのか。」「実習生が誰一人感染しなかった要因はどのようなものか。」「新型コロナ感染症対策として実習生の行動様式に変容はあったのか。」などについて調査により明らかにしたいと考えた。

本稿では、本学の感染症対策、実習生自身の感染症対策、実習生を取り巻く関係者等の感染症対策、実習生の行動様式の変容状況、新型コロナの教育実習への影響等を調査し、コロナ禍における本学の諸実習への対応や対策を明らかにすることを目的としている。

キーワード：本学の感染症対策 実習生の感染症対策 実習生の行動様式の変容
新型コロナの教育実習への影響

1 はじめに

一昨年発生した新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」と記す。）は、瞬く間に全世界に感染が拡大し日本においても 3 月上旬に初めて感染者が確認された。令和 3 年 1 月 16 日の世界の感染者は 9000 万人を超え、日本国内でも累計感染者数が 31 万人を超えるほどの状況にある⁽¹⁾。

国内での感染拡大を受けた日本政府は、新型コロナ感染症対策の特別措置法に基づく「緊急事態宣言」を 4 月 16 日に発出し、東京など 7 つの都府県以外でも感染が広がっていることから、5 月 6 日までの期間、対象地域を全国に拡大することを正式に決めた。

筆者は、昨年 4 月より本学の実習指導課長という職を拝命し、本学全体の実習を担当することとなった。新型コロナの感染拡大により、筆者の初めての仕事が本学で 6 月に予定していた教育実習を 9 月に延期することであった。感染拡大に対する本学の強い危機意識と実習生が感染した場合の実習園や園児等への影響を防ぐための素早い対応であった。

国内及び本県の感染拡大の状況の中、180 名の実習生が誰一人感染することなく教育実習を無事に終えたのは驚くべきことであると考えている。この主な要因は何なのか。コロナ禍において

実習生の行動様式に変容があったのかについて調査を通して明らかにしたいという強い思いがあった。

2 研究の目的及び研究仮説

①研究の目的

本稿は、新型コロナに関する本学の感染症対策と実習生へのアンケート調査を通して、以下の点を明らかにしたいと考えている。

- ア 本学の新型コロナ感染症対策の概要
- イ 実習生及び実習生を取り巻く関係機関等の新型コロナ感染症対策
- ウ 実習生のコロナ禍前後の行動様式の変容
- エ 新型コロナの教育実習への影響

②研究仮説

新型コロナの感染拡大前及び感染拡大期における本学の様々な感染症対策と実習生一人一人の感染症対策と行動様式の変容が、教育実習生 180 名が誰一人新型コロナに感染せずに教育実習を終了させた要因ではないだろうか。

特に、新型コロナに感染した場合は教育実習が中止または延期になるという実習生の強い危機意識や感染した場合の家族に与える影響及び風評被害等に対する強い不安感などが実習生一人一人の心を支え、自分自身ができる最大限の感染症対策を徹底したのではないだろうか。特に、感染拡大前の保育実習 I a と感染拡大期の教育実習を比較すると、実習生の行動様式が大きく変容したのではないだろうか。

③研究の方法（アンケート用紙による調査研究）

本稿を書くに当たり、教育実習を終えた本学実習生に 2 回の調査を実施した。

ア 第一次調査

調査期間：10 月 12 日～10 月 19 日（教育実習終了後約 1 週間経過）

調査人数：保育科 2 年 A・B・C クラス 合計 81 名

調査内容：新型コロナが与えた影響、自身の新型コロナ対策、実習園の新型コロナ対策、家庭の新型コロナ対策 アルバイト先の新型コロナ対策
感染及び濃厚接触者となった場合の不安感 など

イ 第二次調査

調査期間：11 月 16 日～11 月 29 日

調査人数：保育科 2 年 A・B・C クラス 合計 89 名

調査内容：感染拡大前後の実習生の行動様式の変容
接触確認アプリ（COCOA）の利用度 公共交通機関の利用度の変化
食堂やレストラン等の利用度の変化 スーパーやコンビニの利用度の変化
友人との会話や食事の回数など 2 月の保育実習 I a との比較

④ 倫理的配慮

本学の倫理規定に基づき、学生に研究趣旨と研究参加による不利益のないことを口頭説明し、提出により同意が得られたものとした。調査で得られたデータは筆者が厳重に保管し、学生の記述した内容から個人が特定できないよう連結不可能匿名化とする。

⑤ 行動様式及びコロナ禍の前後の比較

行動様式とは、個人や集団の行動の仕方のうち、その行動の仕方が固定され反復されるもの

である。つまり「行動、思考、感得の様式」のことである。なお、複数の行動様式が個人や集団の全生活で統一性をもつ場合は「生活様式」という。

本調査では、国内及び県内で新型コロナ感染者が存在しない時期に行なった「保育実習Ⅰa（2020. 2月）」と国内及び県内で新型コロナ感染者が拡大傾向にあった時期に行なった「教育実習（2020.9月）」での本学の実習生の行動様式を比較し、コロナ禍の前と後の実習生の行動様式の変容について調査を通して明らかにすることを目的とする。

3 令和2年度における教育実習の実施に当たっての留意事項（文部科学省）

4月3日付けで文部科学省から教育課程を置く各指定教員養成機関の長あてに通知⁽²⁾された。その通知文には、

「今年度の教育実習については、感染症の状況を踏まえつつ、実施時期、期間、内容等について弾力的な対応を検討するよう、大学等に周知しております。教育実習生を受け入れることとなる幼稚園、小学校、義務教育学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校等（以下「小学校等」という。）や教育委員会等におかれては、各小学校等の状況を踏まえつつ大学・専門学校等と連携・協力してご対応いただけますようお願いいたします。また、実習中は、学生は各小学校等における感染症対策に基づいて行動することとなりますので、必要な指示を行っていただくようお願いいたします。

一斉臨時休業を踏まえ、必要な感染症対策を講じながら教育活動を行う中で、教育実習生を受け入れることとなり、御負担をおかけいたしますが、学校現場での教育実践を通じて、学生自らが教職への適性や進路を考える貴重な機会であるという教育実習の重要性に鑑み、教育実習生の受け入れについて、引き続き御協力を賜りますようお願いいたします。

というものであった。（アンダーラインは筆者が記す。）

この通知では、今年度の教育実習については本県内の感染状況を考慮しつつ教育実習の実施時期や期間、内容等を弾力的に対応して教育実習を実施すること、教育実習先である幼稚園等においては、教育実習の重要性を考慮して引き続き教育実習を実施していただきたいことを通知している。

この通知により、本学では緊急事態宣言中及び感染拡大中における6月の教育実習の実施は困難ではないかと考え、実施時期や実施内容等について検討をはじめた。

4 新型コロナの感染状況と実習園からの問い合わせ内容等

① 教育実習前の新型コロナの感染者状況

国内及び本県においても、年度当初から感染拡大（第1波）がみられた。「表1」はNHKの特設サイト「新型コロナウイルスデータ一覧」のデータである。

表1 新型コロナの感染者数（延べ人数）

	4月末	5月末	6月末	7月末	8月末
日本国内	14421名	16898名	18763名	36414名	68543名
宮崎県内	17名	17名	17名	141名	358名

本県においては、3月4日に感染者がはじめて確認された後、4月末までに延べ17名の感染者が確認された。5月と6月には感染者は確認されていないが、7月には124名、8月には217名の感染者が新たに確認された。

② 6月予定の教育実習に寄せられた実習園の問い合わせ等

新型コロナの国内及び本県の感染拡大の中、6月に実習を予定している幼稚園等から様々な電話での問い合わせがあった。「表2」は4月1日から9月の教育実習開始前までの実習園からの問い合わせ内容等である。(アンダーラインは筆者)

表2 教育実習園からの教育実習に関する問い合わせ内容等

日付	実習園からの問い合わせ内容等
4月10日	コロナの影響を心配している。 <u>時期をずらしての実習をお願いします。希望は秋以降。</u>
4月13日	コロナの影響にて、今年度の <u>教育実習は中止</u> させてください。
4月13日	<u>実習はどうなっているか。学校の意見を聞きたい。</u> 「20日に連絡がほしい。うちの園では行事も全てキャンセルしている状況であるということはお伝えしておきます」
4月16日	実習Iの中止文書頂きました。私どもも中止を考えていたので良かった。 <u>5月の実習は受け入れできない。6月も厳しい</u> と考えている。
4月21日	「文科省と〇〇市の教育委員会から文書が届き、 <u>教育実習は延期していただきたい、9月以降と書かれているので今回はできない。短大もそれでよいか。</u> 」
4月23日	「6月の実習はどうなっているか。」
4月27日	9月に時期変更の文を受け取りました。9月に4名すでに実習生が決まっているため、9月の受入は難しいです。
5月11日	「9月の教育実習の時期を知りたい」9月7日からの予定をお伝えすると、 <u>他大学の学生が入っている為、10月を希望する。</u>
7月27日	<u>9/7～の教育実習は中止</u> させてください。
7月28日	<u>9/7～の教育実習は中止</u> させてください。時期をずらしてなら可能、保護者が心配すると思われる。
7月28日	9/7～実習生3名を受け入れますが、必ず検温をすること、 <u>実習開始最低2週間は健康チェックを行っていただきたい。</u> また、学校でも命に関ることなのでしっかり指導をお願いしたい。 <u>県外へ行っている実習生は受け入れません。</u>
7月29日	9/7～の実習の件で、8/8に打合せとなっていたが、 <u>園に来る回数を少しでも減らしたい。</u> 楽譜等を学生宅へ郵送したいと思っている。
7月30日	9/7～の実習の件で、〇〇市でも4名の感染者が出ました。今後も増えると思われるのと、幼稚園も2学期以降の開園が厳しい状況です。緊急で会議も開かれています。このような状況で実習を受け入れるのは難しく、ただ、学生さんには免許を取ってほしいという思いはありますので、一旦、 <u>9/7～の実習は中止し下火になり実習可能であれば相談、</u> という形にしてほしい。

8月3日	園長より電話。〇〇市の感染者増により、Sさんの訪問を中止し、手紙でのやり取りとしたい。今後の状況によっては、9月7日からの教育実習を中止することとなる。実習延期については考慮したい。
8月4日	9/7～の実習について、コロナ感染に伴い、 <u>実習2週間前からの検温、実習中の検温について徹底するよう学生に指導</u> をお願いしたい。
8月5日	8/8に打合せになっているが、 <u>電話での打合せ</u> でもよいか。
8月6日	大変な状況になっています。園でも職員が3名休んでいる状態。学校の状況をお聞きしたいのと、職員の方で、「短大は実習先確保をしているから断っても大丈夫」と言われた。それは本当か？また、職員も足りない中、実習生がこの状態では負担が...といわれた職員もいた。本日、園長がお休みの為、理事も兼ねる私が聞くことになりました。受け入れたい気持ちがあるのと、私達、みんなが実習を経験して働いている、その気持ちは十分にわかります。
8月6日	〇〇市は今大変な状況です。お分かりとは思いますが、自粛要請も出ています。 <u>この状況では実習はできないが、9月ギリギリまでまとう</u> とは思っています。打合を12日に予定していますが、12日はとてもできない、9月5日（午後）にしたい。学生に伝えて下さい。また、 <u>急遽、9/7～の実習も中止にして頂くこともある事を理解してほしい</u> 。その場合は延期とします。判断は、実習先でよいですよ。
8月11日	実習生より連絡有り。コロナ影響により、打合せにて、実習中止・延期になるかもしれないことを学校へ伝えて下さい。
8月12日	<u>9/7～の実習はコロナにより中止</u> させてください。延期できるかどうかとも分からない。
8月27日	<u>9/7～の実習は実施できない</u> が実習生が気になる、就職が内定している学生で資格取得はできるか。
8月28日	再度実習の件についてお願いする。〇〇県の短大と〇〇県の大学も実習を断わっている状況。一度発生すれば、大変なことになるので理解していただきたい。〇〇県の短大は1月に実施延期となったが、宮短大はどうか。 <u>現状のままの9月実習は難しい</u> 。
8月28日	園長と主任が不在のため、実習の有無については、判断ができない。下火になった状況でもあるので検討して報告する。
8月31日	園長に再実習依頼の電話。教職員と協議をしていないが、 <u>延期という方向で考えている</u> 。短大としては時期的にはいつ頃がいいのか。

実習園からの問い合わせや要望等を考慮し、本学の実習指導担当者会で協議後に部科長会に審議をお願いした。審議内容は以下の通りである。

- ①6月の教育実習を中止し9月に延期したい。
- ②教育実習を中止した期間は、保育実習Ⅰb（施設実習）を学内で実施したい。
- ③健康チェックシートを実習生全員に配布し、該当項目のチェックをさせ、実習園に実習初日に提出させる。また、実習中も毎日健康チェックシートを記入させ、園長に提出させる。

部科長会での審議を経て、新型コロナの感染状況を見ながら夏季休業中の 9 月に教育実習を実施することに決定した。なお、新型コロナの影響から教育実習を中止した幼稚園等が 5 園（実習生 8 名）あったが、実習生の自宅等近辺の幼稚園等のご理解とご協力を得て 8 名全員が他の園で教育実習を行うことができた。

5 本学における新型コロナ感染症対策

年度当初よりの本学の新型コロナ感染症対策への取組みは目を見張るものがあった。

① 本学における新型コロナ感染症対策

ア 4 月 10 日付け文書

1 年生の入学直後に学長名で「学生の皆さんへ 新型コロナウイルス感染防止に向けて」という文書を発出した。内容は、①手洗いや咳エチケットの徹底 ②検温等による体調管理 ③三密を避ける生活 ④不要不急の外出を極力避ける ⑤密閉された空間や多くの人が集まる場所でのアルバイトの禁止 ⑥風邪症状等がある場合の自宅休養などであった。

この文書により、学生及び教職員に向けて感染予防策を徹底するように働きかけを行った。

イ 4 月当初のオリエンテーションで全学生への指導

入学直後のオリエンテーションで「学生等の体調管理に対する留意点～新型コロナウイルス感染症対策として～」について全学生に次の点を説明した。①体調管理（自己チェックの強化）②授業中の管理 ③学外生活などである。特に、37.5 度以上の発熱の場合はかかりつけ医等に相談することや授業中の換気（45 分で窓やドアの全開 5 分間）についてなどの指導がなされた。

ウ 4 月 17 日付け unipa（ユニバーサルパスポート）で学生へ周知

本学学生のほとんどが使用している unipa により、学生と教職員に「新型コロナウイルス感染症に罹患等した場合の授業等への出席について」を発出した。内容は、①特別警戒都道府県に滞在した場合 ②疑われる症状が出た場合又は濃厚接触者となった場合 ③新型コロナウイルスに感染した場合 ④感染症治癒証明書の提示などであった。この文書により学生及び教職員が感染した場合の適切な対応等について周知されることになった。

エ 7 月 6 日付け文書

隣県でクラスターが発生し 110 名の感染者が確認される中、宮崎市でも 18 名の感染者が確認される中において、「学生の皆さんへ 学生のマスク着用の義務化について」という文書を学長名で発出した。その内容は、「本学におけるマスク着用場所及び場面」であり、具体的には「①敷地内の全ての建物内とする。②マスクを着用していない学生には、講義受講を許可しない。③その他、昼食時等、マスク着用がふさわしくない場面などについては、各学生の良識ある判断にゆだねるものとする。であった。さらには、公共交通機関を利用する場合、対面や三密となる場面等においてもマスクを着用するよう指導している。この日以降、新型コロナ感染症対策として全ての学生及び教職員が学内等のあらゆる場所や場面等においてマスク着用が義務化された。

オ 対面授業中止と遠隔授業の実施

全国及び県内における感染拡大の状況から、「今後の授業について（7 月 27 日）」という講義に関する本学の方向性が拡大教授会において教職員に示された。その内容は、「新型コロナウイルスの感染状況から、当面の間、遠隔授業を実施する。実施方法については、① Youtube を使ったオンデマンド授業 ② Zoom を使った双方向型授業 ③ 課題研究等による

授業を選択し、授業を実施することとする。」であった。そのため、翌 28 日より遠隔授業が開始された。また、「教職員の出張」「教職員の私事旅行」「学内に感染者又は濃厚接触者が出了場合」等について今後の方向性が示された。

カ 消毒液等の設置と教室換気

新型コロナ感染症対策として、アルコール消毒液や電解水を学内のいたるところに設置するとともに、外来者や学生の検温機器として非接触型体温計を設置した。また、授業の前後には、電解水で教卓や机と椅子等を消毒した。なお、90 分の授業の開始前と終了後、授業経過 45 分後の合計 3 回で教室のドアや窓を全快して教室内の空気の入替えを全学で実施した。 ※消毒液等については本稿巻末に参考として写真を掲載する。

②実習指導における新型コロナ感染症対策

本学では、保育科 2 年生の各種実習に向けた指導のために「実習指導」を、毎週火曜日の 1 限目に 240 名収容できる 35 教室で一斉指導という形式で実施している。新型コロナ感染症対策として、三密を避けた講義形式として、4 月より以下のような対策を行なった。

ア 配信授業開始と指導教室変更

実習指導では、保育科の A クラスから F クラスの約 210 名を 35 教室で一斉に指導していたが、新型コロナ対策として三密を避けるために、主教室となる 35 教室からビデオカメラを使用した配信授業を行なった。これまで 200 名以上の学生を収容して一斉指導していた 35 教室には 3 クラス約 100 名を収容し、それ以外の 3 教室にそれぞれ約 30 名を収容した。

イ 実習生への新型コロナ感染症対策の指導

・ 4 月 6 日：保育科 2 年生実習オリエンテーション

新型コロナの感染拡大を受けて、教務部ガイダンスの時間に「これからの実習指導」というテーマで 2 年次の実習予定及び新型コロナ感染症対策について説明した。実習中の新型コロナ感染症対策として一番大切なことは、自分の命と園児の命を守ることであり、そのために次の項目を指導した。

- 実習前及び実習期間には、毎朝の検温と風邪症状の確認を行なうこと。
- 実習中はアルバイトを禁止すること。
- 実習期間中の休日（土曜日・日曜日）は基本的に自宅待機すること。
- 日頃から手洗いや咳エチケットなど基本的な感染症対策をとること。
- 実習中はマスクを常時着用すること。
- 感染者及び濃厚接触者になった場合は実習を直ちに中止すること。
- 実習中は実習園の感染症対策に従うこと。

なお、4 月当初はマスクの供給体制が整っておらずにマスクが手に入りにくい状況があったため、手に入らない場合は本学教員が YouTube に掲載した動画「おうちでつくれるマスクの作り方紹介」を紹介し、自作マスクを必要に応じて作るよう指導した。

・ 5 月 12 日：実習指導の時間

国内及び本県においても感染が拡大する中、実習先の幼稚園等から 6 月予定の教育実習に関して中止や延期の要請があり、実習指導担当者会及び実習指導委員会を開催して協議した結果、6 月の教育実習を 9 月に延期することが了承された。そこで、5 月 12 日の実習指導の時間に「新型コロナの影響による実習期間の変更」と「新型コロナ感染症対策」について再度指導した。

実習園の園長先生の「実習生の健康チェック等を徹底させてほしい。病気に弱い園児なので心配です。」という要望と介護現場の実習担当者の「現在新型コロナウイルス感染症対策として、利用者の家族の面会と外部人材の施設内への立ち入りを禁止している。実習を行なうのであれば短大でも新型コロナウイルス感染症対策をしっかりと行なってほしい。」という要望等を実習生全員に説明し、新型コロナウイルス感染症対策についての意識を高めた。

ウ 「健康チェックシート」の作成と学生への指導

4月3日付けで文部科学省から教育課程を置く各指定教員養成機関の長あてに通知⁽²⁾された。その通知文には、

2. 実習生への事前指導

- (1) 教育実習の実施の2週間程度前から、毎朝の検温及び風邪症状の確認を行なうことや、感染リスクの高い場所に行く機会を減らすこと等を実習生に徹底していただくこと。 ※アンダーラインは筆者が記す。

の文面があったことから、以下のような項目を含めて「健康チェックシート」を本学独自に作成した。

- ・保育科（ ）年（ ）クラス 学籍番号（ ）氏名（ ）
- ・質問1：今から7日以内に密閉・密接・密集した場所への出入りがありますか。
- ・質問2：今から14日以内に県外への外出・外泊がありますか。
- ・質問3：今から14日以内に海外への渡航歴がありますか。
- ・健康チェック項目
 - 曜日、日付、体温（朝）、体温（夕）、咳（有・無）、咽頭通（有・無）、倦怠感（有・無）、食欲（無・有）、味覚（不良・良好）、嗅覚（不良・良好）、下痢（有・無）、同居者の健康状態（不良・良好）

なお、実習生の新型コロナウイルス感染防止に対する意識を高めるために、説明翌日から健康チェックシートを毎日記入させ、定期的に学級担任へ提出するよう指導した。

6 実習生自身の新型コロナウイルス感染症対策

実習生の新型コロナウイルス感染症対策の状況について、第一次調査及び第二次調査を実施した。

① 第一次調査の概要

- ア 調査期間：10月12日～10月19日（教育実習終了後約1週間経過）
- イ 調査人数：保育科2年A・B・Cクラス 合計81名
- ウ 調査内容：新型コロナウイルスの影響、自身の新型コロナ対策、感染及び濃厚接触の不安感
- エ 調査結果

1 新型コロナが与えたあなたへの影響について

- ① 新型コロナは、あなたの生活に影響を与えましたか。

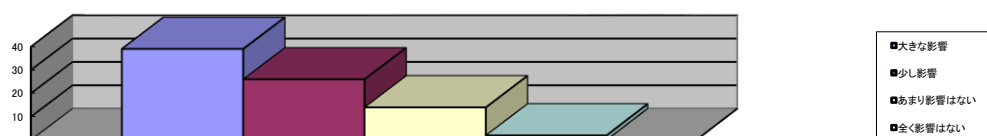


図1 新型コロナの生活への影響度

「大きな影響 39名 少し影響 26名 あまり影響はない 14名 全くない 2名」

② 新型コロナは、あなたの短大での学業に影響を与えましたか。

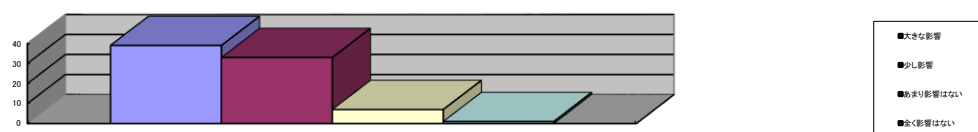


図2 新型コロナの学業への影響度

「大きな影響 39 名 少し影響 33 名 あまり影響はない 7 名 全くない 1 名」

2 私は、新型コロナに感染しないように努力した。

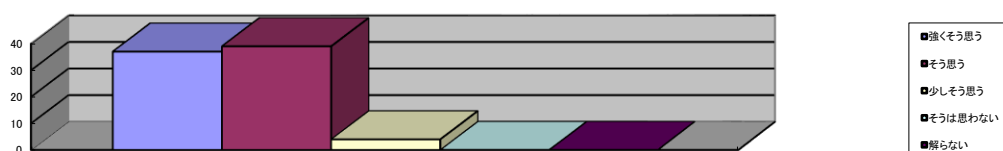


図3 新型コロナ感染対策

「強く思う 39 名 そう思う 39 名 少し思う 4 名 思わない 0 名」

3 今回の教育実習は、新型コロナの影響により授業が配信となったり実習指導も配信となったりしました。2月の保育実習Ⅰa（保育園実習）と比べ、今回の教育実習に臨むに当たってあなた自身に何らかの影響はありましたか。

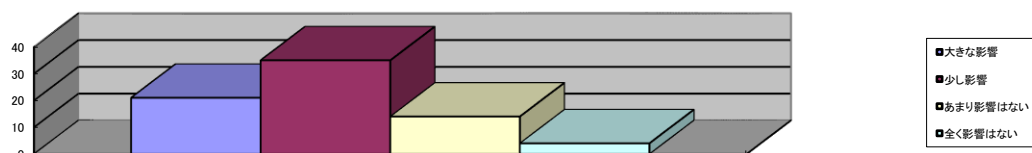


図4 新型コロナの教育実習への影響度

「大きな影響 21 名 少し影響 35 名 あまり影響はない 14 名 全く影響はない 4 名」

4 あなたが「新型コロナ感染」又は「濃厚接触者」となった場合に感じる不安感は何ですか。

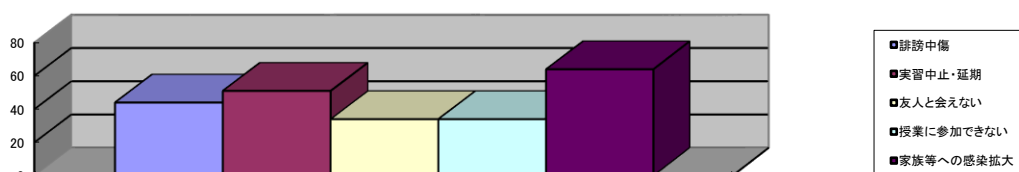


図5 感染者及び濃厚接触者となった場合の不安感

「誹謗中傷 44 名 実習中止・延期 51 名 友人と会えない 34 名」

授業に参加できない 34 名 家族や友人等への感染拡大 64 名」

②第一次調査の考察

第一次調査においては、実習生の新型コロナに対する危機意識等についても項目を調査した。新型コロナに関する実習生への影響については、生活に影響があった（大きい＋少し）と答えた実習生が 81 名中 65 名（80％）であり、学業に影響があった（大きい＋少し）と答えた実習生が 81 名中 72 名（89％）であった。

また、新型コロナへ感染しないように努力したと答えた実習生が 81 名中 76 名（94％）と多く、ほとんどの実習生が新型コロナへ感染することに強い危機意識をもっていたことがわかった。さらに 1 年次の 2 月に実施した保育実習Ⅰa と比較し、今回の教育実習への新型コロナの影響があったかどうかについて尋ねたところ、81 名中 56 名（69％）の実習生が何らかの影響があったと答えている。

なお、新型コロナに感染または濃厚接触者になった場合の不安感について複数回答により尋ねたところ、「誹謗中傷への不安感：81 名中 44 名（54％）」「実習中止及び延期への不安感：81 名中 51 名（63％）」「友人と会えない不安感：81 名中 34 名（42％）」「授業に参加できない不安感：81 名中 34 名（42％）」「家族への感染拡大の不安感：81 名中 64 名（79％）」となった。

この調査により、実習生は新型コロナに感染又は濃厚接触者となった場合に教育実習が中止されたり延期されたりすることへの不安感を 63％の実習生がもっていることが調査で明らかになった。

③第二次調査の概要

ア 調査期間：11 月 16 日～11 月 29 日

イ 調査人数：保育科 2 年 A・B・C クラス 合計 89 名

ウ 調査内容：新型コロナ禍前後の実習生の行動様式の変容（2 月の保育実習Ⅰa との比較）「公共交通機関の利用度、食堂やレストラン等の利用度、スーパーやコンビニの利用度など」

エ 調査結果

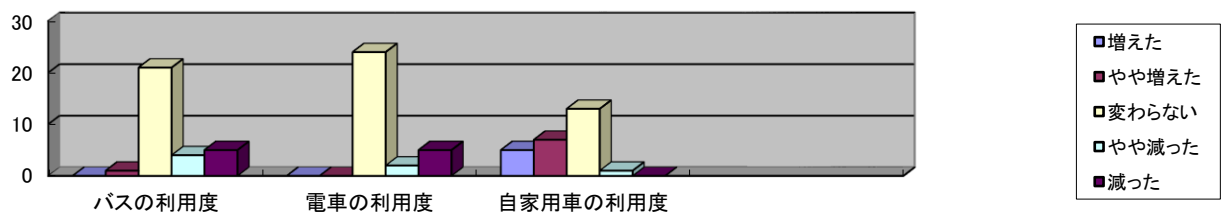


図6 公共交通機関の利用度

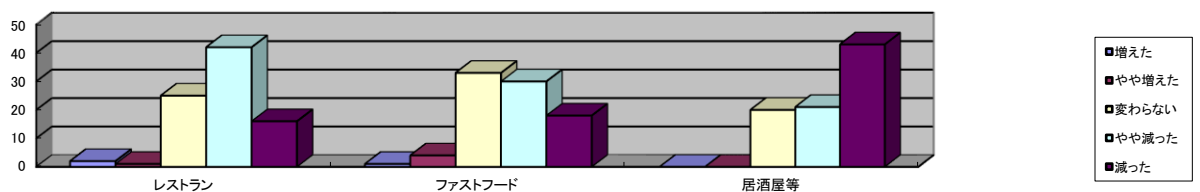


図7 食堂やレストランの利用度

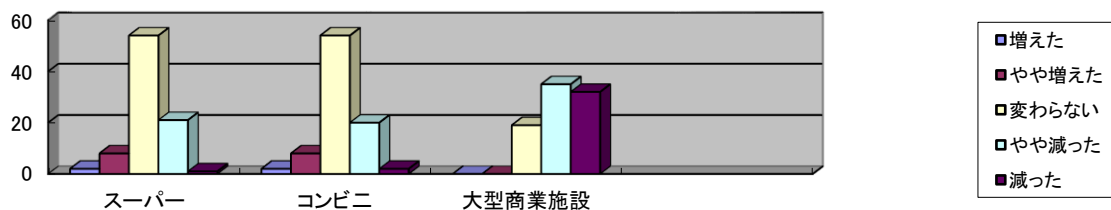


図8 スーパーやコンビニ・大型商業施設の利用度

④第二次調査の考察

第二次調査においては、新型コロナ感染拡大前と感染拡大後の実習生の行動様式の変容について調査を行なった。「公共交通機関の利用度」「食堂やレストランの利用度」「スーパーやコンビニの利用度」などの学生の行動様式について調査を実施した。

「公共交通機関の利用度」については、本学の実習生が県内各地から通学していることから電車内やバス内の三密を避ける行動があるのではないかと推測した。その結果、バスは89名中28名（31%）、電車は89名中27名（30%）の利用が減った（減った＋やや減った）ことが明らかになった。また、公共交通機関の利用度減少の影響からか自家用車利用は89名中49名（55%）が増えた（増えた＋やや増えた）と答えている。新型コロナの感染拡大の中であって、三密に近い朝夕の通学時間帯の電車やバスの混雑を避けた実習生の状況が明らかになった。

「食堂やレストランの利用度」については、新型コロナの専門家会議等で大人数での会食が感染拡大につながるのではないかとという情報が流されたために、実習生自身も会食を避けているのではないかと推測した。その結果、レストランの利用は89名中58名（65%）、ファストフード店の利用は89名中48名（54%）、居酒屋等の利用は89名中64名（72%）が減った（減った＋やや減った）と答えている。新型コロナの感染拡大の中であって、会食の危険性を強く意識していることが明らかになった。

「スーパーやコンビニ等の利用度」については、感染拡大を避けるために三密が予想されるスーパーや商業施設への訪問を避ける傾向があるのではないかと推測した。その結果、スーパーやコンビニ等の利用度はやや減った程度であったが、大型商業施設への訪問については、89名中67名（75%）の実習生が減った（減った＋やや減った）と答えている。

⑤自由記述に関する調査項目

新型コロナ対策として、実習生自身が取り組んだことについて自由記述方式で調査した。

ア 実習生自身の新型コロナ対策

○質問：あなた自身が教育実習前から教育実習中に新型コロナ対策として取り組んだことを書いてください。（複数回答：調査人員81名）

マスクの常時着用	58名	三密を避ける	5名
手洗いやうがい	51名	帰ったらすぐにお風呂	4名
人ごみに行かない	39名	県内の観光スポットに行かない。	2名
常に手指消毒	39名	家や部屋の換気に心がける	2名

毎日検温	22 名	アルバイトを減らす	1 名
県外に行かない	10 名	カラオケに行かない	1 名
健康チェックシート記入	9 名	外食をしない	1 名
除菌シートの常時携帯	9 名	地元から出ない	1 名

イ 家庭での新型コロナ対策

○質問：家庭での新型コロナ対策として、日頃より保護者から強く言われていることはどんなことですか。（複数回答：調査人員 81 名）

手洗いうがい	42 名	帰ったらすぐにお風呂	3 名
マスクの常時着用	42 名	県外の人と交流しない	2 名
手指の消毒	20 名	公共のものに触れない	2 名
外出避ける	11 名	家や部屋の換気をする	1 名
人ごみに行かない	7 名	カラオケ禁止	1 名
アルコール消毒をする	5 名	居酒屋禁止	1 名
感染を考えて行動する	3 名	検温をする	1 名
三密を避けた行動する	3 名	保護者から何も言われていない	2 名

ウ 実習園での新型コロナ対策

○質問：あなたが実習園で行なった新型コロナ対策を詳しく書いてください。

マスクの常時着用	38 名	園児も保育者も全員マスク	5 名
入園前の検温	24 名	保護者の立ち入り制限	5 名
入園前の手指消毒	21 名	昼食時の会話制限	5 名
アルコール消毒	19 名	給食時のアクリル板設置	5 名
手洗いうがい	14 名	給食前の机の消毒	1 名
机や椅子の消毒	13 名	三密を避けた椅子の配置	1 名
教室の換気	7 名	保護者の送迎人数制限	1 名

○質問：実習園からあなたの朝の体温が何度で実習は中止と言われましたか。

37 度以上（5 名） 37.5 度以上（14 名） 記入なし（70 名）

エ 自由記述に関する考察

自由記述の質問では、実習生自身の対策や家庭での対策と実習園で実施されている対策を尋ねた。「マスクの常時着用」「手洗いうがい」「手指消毒」「検温」などの新しい生活様式が上位を占めている。実習生自身はもちろんのことほぼ全ての家庭でも感染防止のために保護者から「新しい生活様式」に関する強い指示があったようである。また、実習園においても 37 度以上の発熱で実習を中止するという指導があったほか、入園時の検温と消毒や常時マスク着用、給食時の園児同士の会話制限や保護者の立ち入り制限などの対策が行なわれている。

実習生自身も「外出を控える」「人ごみに行かない」「県外に行かない」「アルバイトを減らす」「カラオケに行かない」など感染防止を強く意識して生活していることがわかった。

7 新型コロナ感染拡大期における実習生の不安感等

今年度は 6 月の教育実習を 9 月に延期しての教育実習となった。県内においては 5 月と 6 月の感染者は確認できなかったが、7 月から 8 月にかけて感染が急激に拡大した。本学でも感

染拡大を受け、7月28日から実習生は登学せずに自宅等での遠隔授業を開始した。

通常なら教育実習に向けて、実習生同士が保育指導案を検討したり教員の研究室を直接訪問して、保育日誌や研究保育の内容や保育指導案に関することなどを質問したり、図書館で実習の資料を閲覧したりする光景が見られたが、実習生の登学を中止し配信授業となったために今年度はそのような光景は見られなかった。

このような状況の中、2月に経験した保育実習Ⅰaの経験と今回の教育実習を比較して、実習に臨むにあたってどのような影響があったか調査をした。

○質問：今回の教育実習に臨むにあたって、新型コロナはあなたにどのような影響を与えましたか。

友人に相談できない	21名	新型コロナへの感染の恐れ	3名
先生に相談できない	16名	実習への心構えができない	2名
研究保育の相談ができない	13名	マスクの手配ができない	1名
事前準備が不足した	4名	花粉症のくしゃみが疑われる	1名

○質問：新型コロナの影響のために教育実習でできなかったことは何ですか。

主活動の制限	4名	給食時に園児と話せない	1名
マスクで表情がわからない	4名	研究保育の時間が短くなった	1名
他のクラスに関われない	1名	園児との信頼関係が築けない	1名
園児同士の触れ合いがない	1名	お泊り保育が中止となった	1名

実習生からは「主となる活動を行う際に密を避けるため、例えばじゃんけん列車などの活動ができず主活動の内容が制限された。」「園児全員がマスクを着用していることから園児の表情がつかみにくかった。」「実習生もマスク着用をしているために、園児に表情を伝えることが不十分であり信頼関係を深めることができなかった。」などの影響を聞くことができた。

8 研究の成果と課題

① 研究の成果

新型コロナの感染拡大時期に本学の実習生 180 名が、県内及び県外の幼稚園等で教育実習を行なった。感染拡大の影響等により実習を中止した園もあったが、受け入れ可能な幼稚園等の理解と協力を得て 180 名の実習生全員を実習に派遣することができた。また、実習前から実習中にかけて誰一人新型コロナに感染せずに無事に教育実習を終了することができた。令和3年1月8日の段階で誰一人感染していない状況にある。

ところで、本県では、教育実習前の7月と8月に感染が拡大し、実習園から実習に関する多くの問い合わせや要望が寄せられた。調査結果にあるように年度当初からの本学の新型コロナ対策や実習生への定期的な指導や登学を中止しての遠隔授業の実施、実習生を取り巻く環境下での実習生自身の新型コロナ対策等が功を奏したのではないかと考える。

本稿では、実習生への調査を通して、コロナ禍の前後における実習生の行動様式の変容を明らかにすることができた。また、実習生の新型コロナ感染への強い危機意識や感染した場合の風評被害等に対する強い不安感等が実習生一人一人の感染防止を徹底させたということも明らかにした。さらに年度当初からの本学の徹底した新型コロナ対策と実習生への定期的な指導も功を奏した結果だと考えられる。

次年度も今年度と同じように新型コロナの影響が懸念される。今回の研究で得られた貴重な結果等を次年度の本学の実習に活かしていきたい。

②研究の課題

本稿では、本学の新型コロナ感染症対策の状況と実習生自身の新型コロナ感染症対策、実習生を取り巻く様々な感染症対策、実習生のコロナ禍での行動様式の変容の状況等について明らかにすることができた。

ただ本県における教育実習前後の感染者数は、全国の都市部と比較すると大幅に少ない状況であり、本県の感染者数の少なさが結果的に本学の実習生が感染しなかったという可能性も大きい。今回の調査結果だけで本学の実習生全員が新型コロナに感染しなかった理由だとは到底断言できない。今回の調査結果を参考に、新たな新型コロナ対策を準備し、次年度の実習においても実習生の危機意識を今年度以上に高めるとともに実習生自身の新型コロナ対策と本学の新型コロナ対策を徹底し、計画通り諸実習が実現できるように取り組んでいきたい。なお、今回の調査で得られた実習生の行動様式の変容が、本学学生集団の全生活で統一性をもった生活様式となるように祈っている。

9 終わりに

コロナ禍での実習を経験し無事に終了した 180 名の実習生の多くが、今年の 4 月に保育現場に就職する。短大での 2 年目は新型コロナの影響により、通常と違う環境の中で通常と違う実習を経験するしかなかった。通常であればいろいろと準備して実習に臨めたはずであるが、いろいろな制限を受けて実習を終えることとなった。

3 月に卒業を迎える実習生一人一人が、新型コロナの影響で十分な実習ができなかった経験をバネに新しい保育現場で一生懸命に、本学の卒業生としての誇りをもって自分らしく頑張ってもらいたいと願っている。

引用及び参考文献

- (1) NHK 特設サイト「新型コロナウイルスデータ一覧」
- (2) 文部科学省「2 教教人第 1 号」「令和 2 年度における教育実習の実施に当たっての留意点」

< 参考資料 > 本学での新型コロナ感染防止対策の状況



< 本館玄関及び新館玄関前に設置した手指消毒液 > < 学内のいたるところに掲示してある「新型コロナ感染防止ポスター」 >



＜新館玄関前に設置した「アルコール消毒液」＞



＜各教室に設置した授業の開始と終了後に机や椅子等を消毒する「電解水」＞



＜外来者や学生の検温をする体温計＞



＜検温と消毒を同時に行なうことができる機器＞